

宇都宮市立横川中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている。」の肯定割合は59.1%で県より3.3ポイント上回っている。「家で勉強するときに、だいたい同じ時くくに取り組むようにしている。」の肯定割合は72.7%で県より8.7ポイント上回っている。家庭での学習習慣は、良好である。今後も家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化を図っていききたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は90.9%で県より6.7ポイント上回っている。「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定割合は98.8%で、県より7.4ポイント上回り、「いいえ。」と答えた割合は0%である。学習に対してやる気をもって取り組んでいる姿がうかがえる。今後も、この前向きな気持ちを大切にしながら、学習環境、学習形態を考えていききたい。

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」の肯定割合は88.7%で県より5.2ポイント上回り、「いいえ。」と答えた割合は0%である。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定割合はすべて80%を上回っている。きまりを守って楽しく充実した学校生活を送っている児童が多いことがうかがえる。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定割合は93.2%で、県より3.8ポイント上回っている。声掛けを多くし、あきらめずにやることで達成感を味わわせ、意欲につなげていききたい。

○「自分がもっている能力を十分に発きたい。」の肯定割合は93.2%で、県より6.1ポイント上回っている。「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定割合は94.3%で、県より6.4ポイント上回っている。将来への向上心を大切にしながら、今後も意欲的に学習に取り組めるような学習環境を整えていききたい。

○「家の人と学習について話をしている。」の肯定割合は80.6%で、県より5.4ポイント上回っている。家庭でも学習についての話題が上がっていることが分かる。

○「次の教科の授業の内容はよく分かりますか。」の質問では、国語、社会、算数、理科の4教科全てにおいて肯定割合が、県の割合よりも上回っている。学校の授業をよく理解していることが分かる。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の肯定割合は61.4%で県より4.4ポイント下回っている。「学校の授業時間以外にふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」の質問では、県より読書の時間が低く、「全くしない。」と答えた割合は15.9%で、県より2.1ポイント上回っている。「振り返りカード」や「自主学習ノート」を活用し、復習や音読、読書などの内容に意識的に取り組ませ、さらに家庭学習を充実させていききたい。

●「新聞を読んでいる。」「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」の肯定割合は、県の割合よりも下回っている。学校生活や授業の中で新聞の話題を取り上げたり、社会科の学習で地図帳をたくさん使うようにしたりするなど、自分から進んで社会の問題について調べたり考えたりすることができるようにしたい。